



あなたも始めてみませんか 緑のカーテン

～ 広げよう地球温暖化対策の「環」～



緑のカーテンって何？

緑のカーテンとは！？

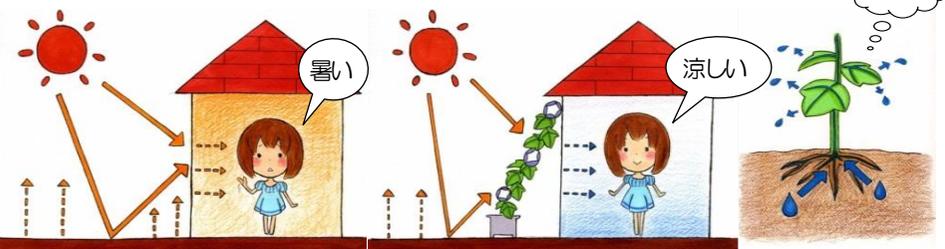
日が当たる窓を「アサガオ」や「ゴーヤ」といったつる性の植物で覆った、自然のカーテンのことです。光合成により、二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出してくれます。

緑のカーテンは葉っぱから水分を蒸発させることで、空気中の熱を吸い取ります。

つまり、夏の強い日差しを遮るだけでなく、涼しい風を部屋に送ってくれます！

この夏、天然のエアコン「緑のカーテン」で、環境や暮らしにやさしい生活を！

緑のカーテンの効果(その1)



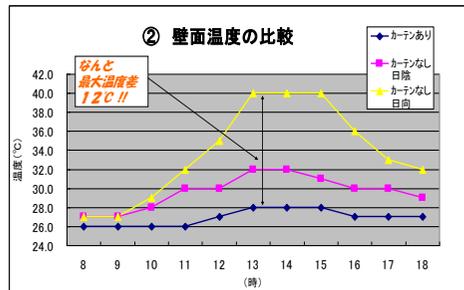
(カーテンなし)

直射日光や地面からの熱の影響で室内の温度は上昇します。

(カーテンあり)

窓からの熱や壁の温度上昇を防ぎます。また、根から吸い上げた水が葉から水蒸気として出てくるので、冷やされた空気が窓から入ってきます。

実際の測定では、外気温で4℃、壁面で12℃の最大温度差が発生!!



※ 測定日：平成21年8月12日(火) / 秋田市最高気温：27.9℃(秋田地方気象台) / 天候：晴れ
場所：旧環境部庁舎 / 測定機器：赤外線放射温度計、棒状温度計

緑のカーテンの効果(その2)

つる性植物の栽培



エアコンの使用削減

つる性植物の栽培

CO2の削減
(スギ約9本分の
吸収量)
電気代の節約

緑のカーテンの設置例

①



②



③



(写真) 旧環境部庁舎(寺内蛭根)の緑のカーテン
①②は2Fベランダのアサガオの様子
③部屋の中からみた様子

「秋田市緑のカーテン写真展」を開催します。
あなたの「緑のカーテンの作品」をご応募ください

(応募方法)

① 郵送・持参で応募される場合

応募用紙に必要事項を記入の上、A4サイズ(21.0cm×29.7cm)にプリントした緑のカーテンの写真を1枚添付して、下記住所までご応募ください。

② メールで応募される場合

応募用紙(エクセルファイル)に記入し、縦横比3:4(4:3)の緑のカーテンの画像データ(おおよそ4メガバイト以内)を添付の上、下記メールアドレスまでご応募ください。

※ お寄せいただいた内容は、市のホームページや広報等で紹介させていただく場合がありますのでご了承ください。

(応募・問い合わせ先)

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

秋田市環境部環境総務課地球温暖化対策担当

(電話) 018-888-5704

(メール) ro-evmn@city.akita.lg.jp

(Web) <http://www.city.akita.lg.jp/kurashi/recycle/1006076/1013710.html>

緑のカーテンの育て方

ここではアサガオの育て方を紹介します。ゴーヤやヘチマなどの植物にも応用することができます。

用意するもの

- 種または苗
- 育苗用のポット：連結ポットか小さな(3号以下)ビニールポット
- プランターまたは花壇：プランターは大きい方が良く育つ
- 土：花や野菜用のもの(赤玉土や腐葉土などから作っても可)
- 肥料：野菜や花用の固形肥料(元肥用)と液体肥料(追肥用)
- ネット：あみ目の大きさは10cm程度
- 支柱など：いぼ竹、杭、ロープなど

5月中下旬～

<プランターや花壇の準備>

- プランターの場合
 - ① プランターの底に鉢底石を薄く敷く(赤玉の大粒でも可)。
 - ② ①の上に野菜や花用の土を9割程度入れます。
※ 肥料が入っていない場合はあらかじめ元肥を適量混ぜてから。
- 花壇の場合
前作の残渣を取り除き、元肥を入れて軽く耕した後に畝を立てます。
※ 土がやせている場合は石灰や土壌改良材を適量混ぜます。

<種まき>

種の発芽適温は20～25℃。5月中旬以降がおすすです。

- 下処理
アサガオの種は硬いので、発芽しやすくするために以下のいずれかの方法で下処理をします。
※ 市販の種で下処理されたものは必要ありません。
 - ① 種の表面をカッターかヤスリでほんのわずかにキズを付け、一晩水に漬けて吸水させます。
 - ② 水に数日間漬けて種がふくらむのを待つ。毎日観察!!
- 種まき
育苗用のポットに土を入れ、深さ0.5～1cm程度の穴を開け、種をまき土をかけます。そのあとたっぷり水をかけます。
- 育苗
 - ① 芽が出るまで土が乾かないようにします。
 - ② 芽が出たら、肥料が土に入っていない場合は液肥を育苗期間に1～2回やります。
 - ③ 双葉が完全に開いたらプランターや花壇に植えます。
※ 右は種まき後約2週間の苗(適期です) →



6月上中旬～

<ネット張り>

ベランダや軒下などにネットの上部をしっかりと固定し、下部は杭やプランター等に固定します。



<定植>

ポットの下を押して土ごと苗を取り出し、ネットにからみやすい位置に10～20cm間隔で植え付けます。

<水やりと追肥>

- ① 生育初期は、土が乾いてきたらたっぷりと与えます。
※ ためた雨水や米のとぎ汁等を使えばさらにエコ!
- ② 真夏は朝夕の涼しい時間帯に2回与えます。
- ③ 2週間に1回程度、水の代わりに液肥を施します。
※ 肥料の与えすぎは、花付きを悪くします。



<つる>

- ① 定植後3週間くらいでつるが伸びてきます。自然に巻き付かないものは巻き付けてあげましょう。
※ このとき、偏らないようバランス良く巻き付かせるのがポイントです。
- ② 葉の密度を濃くしたい場合は、50cmくらい伸びたつるの先端を摘み取ります。1週間後くらいで新たなつるが数本伸びてきます。

<病害虫>

病害虫には比較的強い植物ですが、ハダニ、アブラムシ、ヨトウムシ等に注意が必要です。

<開花・種>

定植後50日後くらいから花が咲き始めますが、種ができる前にしぼんだ花を摘むと、葉っぱの枯れ上がりを遅くすることができます。



9月中旬～

果実が茶色になって成熟し、裂ける程度になった頃に採種し、陰干ししてよく乾燥させた後、翌年まで冷暗所に保管します。

栽培カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
種まき		←→					
定植			←→				
開花				←→			
採種						←→	